

# 目次

序章 軍事革命論と本書の問題意識	3
一 欧米における軍事革命論の進展	3
二 日本史への軍事革命論の適用	5
三 本書の問題意識と構成	7
第一章 日本の槍戦術の推移と特徴——ヨーロッパの戦例との比較から——	12
はじめに	12
一 日本での槍の導入と普及	13
二 近世ヨーロッパでの槍戦術	15
三 鎧で個別に戦う武士のユニット	17
四 長柄足軽集団の戦術の変遷	20
五 日本の槍兵戦術の特徴と要因	26

第二章 銃兵の訓練と常備兵化……………37

- はじめに……………37
- 一 軍事革命論における銃兵の訓練問題……………38
- 二 武士の鉄砲の運用と訓練……………41
- 三 鉄砲足軽の運用と訓練……………43
- 四 銃兵の城下町集住と常備化の進展……………49
- おわりに 集団訓練をしない日本の常備兵……………51

第三章 近世初期までの日本での大砲使用……………57

- はじめに……………57
- 一 ヨーロッパでの大砲導入の状況と日本での大砲使用についての諸説……………58
- 二 攻城戦等での大砲使用の例……………60
- 三 防御戦での大砲使用の例……………64
- 四 野戦での大砲使用の例……………66
- 五 艦船での大砲使用の例……………67
- 六 大砲の輸入及び日本国内での製造状況……………68
- 七 大砲が野戦で使われなかった理由……………72

おわりに……………74

第四章 鉄砲による山城の弱体化と城郭立地の変遷……………81

- はじめに……………81
- 一 大砲の近世築城への影響……………83
- 二 鉄砲の普及と山城の抗堪力の低下……………86
- 三 織田軍団の攻城戦の分析……………91
- 四 織田・徳川氏の築城の傾向……………93
- 五 豊臣政権下での新規築城と大名の本城の立地の傾向……………101
- 六 関ヶ原合戦後の新規築城と立地の傾向……………106
- おわりに……………109

第五章 鉄砲の普及による野戦の決定力の上昇と大名勢力圏の拡大の促進……………115

- はじめに……………115
- 一 集中可能な兵力の限界……………116
- 二 鉄砲の普及と死傷率の上昇……………120
- 三 野戦の決定力の上昇と大名版図の拡大の加速化……………127
- おわりに……………132

## 第六章 兵農分離の進展とその要因

はじめに	138
一 ヨーロッパにおける軍隊規模の拡大と徴兵制の導入	139
二 兵農分離の定義とその要因についての学説状況	142
三 軍役の対象を拡大する戦国大名	144
(一) 戦国大名の通常の軍役の賦課	144
(二) 外征のための軍役対象の拡大	147
(三) 非常時の総動員体制	149
四 織田氏における軍役賦課対象の縮小と兵農分離の開始要因	151
五 豊臣政権での兵農分離の進展	154
六 兵農非分離による兵力の維持	157
おわりに	159

## 第七章 近世初期の日本の兵站・輜重隊の整備とその限界

はじめに	168
一 ヨーロッパでの兵站整備と補給の限界	172
——ヨーロッパとの比較から——	168

## 第八章 近世城郭築城に関わる作業量の増大と大名財政

二 国内戦に見る豊臣政権下での兵站整備と補給の実態	175
三 朝鮮出兵に見る豊臣政権の兵站の実態と補給の限界	182
四 大坂の陣に見る大名の戦費と輜重隊の運用コスト	189
おわりに	195
はじめに	203
一 北条氏の築城状況とコスト	205
二 織豊系城郭の登場と築城作業量の増大	209
三 慶長期以降の石垣作事量の増大と築城コスト	212
おわりに	218

## 第九章 大名における軍事要員雇用態様の変化と財政

はじめに	223
一 ヨーロッパにおける兵員雇用の在り方の変化と国家財政	225
二 税の減免・成功報酬による軍事動員とその限界	227
三 無産階級の動員としての足軽の登場〔免税〕方式から「雇用」方式への転換	233
四 インセンティブ契約が主体の牢人	237

五 軍縮・兵農分離の進展と雇用コストの縮小	240
おわりに 信用主体としての大名	243
終章 本書の結論・日本の軍事革命の態様について	250
あとがき	257
索引	272

装幀・イラスト 合志明子 (タグブレインズ)  
竹口太朗 (タグブレインズ)